



本文に入る前に、一体なぜ山口市では「フランシスコ・サビエル」と、一般的な「ザビエル」ではなく「サビエル」と濁らせずに言うのか、私自身、山口に住みながら「ああ、そうだったのか」と率直に納得できる説明を聞いたことがないし、記憶もない。もしご存知の方が読者の中におられれば、是非教えていただきたいものである。

そのサビエルが大内氏の許可を得て布教を行った大道寺の場所については、フ

ランス人宣教師アマトス・ビリオンが明治22年に、苦勞してこの地を探し当てて大道寺のあった場所としたと言われており、そこに記念公園が作られ、高さ10mの花崗岩の記念碑が建てられた。碑の中心にはサビエルの肖像がはめ込まれている。ただし、ここが本当に大道寺のあった場所であったかどうか、については疑問の残るところだそうで、現在では少なくともこの公園内ではなかったという説の方が有力のようである。

それはさておき、県立図書館にこのビリオン宣教師の書いた「山口大道寺跡の発見と裁許状に就いて」という本がある。国会図書館のデジタルアーカイブでも見ることが出来るので、関心ある方には是非ご一読をお勧めしたい。そこには次のように裁許状の文言も記してある。「周防國吉敷郡山口縣大道寺事從西域來朝之僧爲佛法經隆可創建彼寺家之由任請望之旨令裁許之狀如件 天文二十一年八月二十八日 周防介 押字」本来裁許状は大内義隆から出されているが、この日付「天文二十一年」とは1552年であり、すでに義隆は自刃した後であるから、これは大内義長がその後与え直したものとしている。また、この地を大道寺と特定した根拠としては、調査中に発見された「山口古図」を挙げ、金古曾に「大道寺」とあることから大道寺に間違いのないとしたのである。「此の地図に大道寺と書かれた所と西方にある大内御殿との間に中町と称する地名を発見して愈々当時の地図に相違なきものと鑑定することが出来たのである」と書いている。しかし、古図を保管する山口県文書館の解説によれば、「大内氏が治めていた当時の山口の町の様子を描いた絵図として伝えられる。江戸時代に作成された原図の写しとみられ、大内時代にはなかったはずのお寺の名前など、後の時代の加筆もあるようです」と説明し、かつ図示された「大道寺」についても「サビエル記念公園付近が大道寺の推定地とされましたが、異説もあります」と慎重な言い回しなのだが、さて。(2022.11.22)



**イラストでたどる石州街道 08 サビエル記念公園**

1550年、山口を訪れたフランシスコ・ザビエルは、当時の山口の守護大名、大内義隆に謁見して布教の許しを願ったが、男色の風習は神の教えに背くと強く非難されたため、義隆の怒りを買って、許されなかった。止む無く京に向かったが、戦乱で疲弊した京での布教は諦めざるを得ず、平戸に戻った。そして用意してきた献上品を携えて義隆に許しを得るために再び山口に入った。1551年、珍しい献上品に機嫌をよくした義隆は、ついには布教を許し、庵寺となった。大道寺を与えられた。ここは、わが国で初めてクリスマスのミサが行われたとも言われている。

文イラスト 古谷眞之助

